

## 市役所移転、住民投票行わず

鎌倉市では老朽化した市役所本庁舎を、深沢地域に移転し建設する計画を進めています。これに対して、市民団体から8,270人の署名とともに、移転の是非を問う住民投票の実施に向け条例案が提出されました。採否について市議会臨時会が開かれ審議されましたが、住民投票条例案は反対15名、賛成10名で否決されました。

### 私の会派「鎌倉みらい」は反対投票

私たちは、多数の連署をもって請求された本案の重さは真摯に受け止めています。が、条例の原案は「市長及び市議会は、住民投票の結果に拘束されねばならない」という法令違反の疑いが極めて高い文言が入っていること。また、その修正案にしても、深沢移転に賛成か反対かだけを問うもので、他の場所、よりよい行政サービスを提供できる市役所を、という第3の意見を持つ市民の声は反映されません。住民投票によって市民の意見を二極化させてしまえば、両極端の波の中で喫緊の課題が進まない、などの理由で反対したものです。

### 移転には3分の2の議員賛成が必要

本庁舎をどこに置くかは、市民の意思に基づいて代表者として選ばれた市議会議員のうち、2/3以上の特別多数の同意がなければ出来ません。単なる多数決だけでは決められない重いものです。その議会内の質疑の中で十分に議論を深め、民意を反映し、鎌倉の将来をしっかりと見据えた結論を導き出すように進めていきます。その方が住民投票での過半数の意見で決定するよりも、鎌倉市の将来に対して有益なのではないかと考えています。

## ブログ「いやさか通信」から

### 横断歩道と停止線の白線補修



路面の白線が薄くなり心配する声も増加。警察への請願も回を重ねて、地元でもやっと補修が行われ始め、一日一補修済み箇所が増えています(11/13)。

### 山口県柳井市議会の視察に対応



私達が行った「議員立案による条例制定」の視察を受けました。自転車の安全利用の条例ですが、7年前の事例に今も関心を持って頂けるのは喜びです(11/13)。

### 子どものフリーマーケット



品物から値段、売り方まで子ども達が自分で決めて行うマーケット。町内子ども会の事業です。閉店間際にはたたき売りをしたり、彼らは有能です(11/11)。

### 第25回、快晴の玉縄祭り



玉縄地域の方達が玉縄小のグラウンドにゲームや食べ物など、それぞれ思いのお店を出して、子どもから大人まで楽しめたお祭りでした(11/10)。

### 萩市訪問 姉妹都市交流事業



萩市と鎌倉はS54年11月に姉妹都市を締結。今年は明治維新150年。吉田松陰、松下村塾を誇る萩市の記念すべき年。平成27年に世界遺産登録(11/8~9)。

### 浄明寺町内会 防災訓練



防災紙芝居の読み聞かせ、第二小で体験した段ボールベッドの組み立て練習、簡易トイレの作り方、備蓄食品の試食など、充実の内容でした(11/4)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。  
<http://www.maekawa-ayako.net>

## 共育のまち、鎌倉をつくろう



今年で7回目となった「三世代交流事業」。主催はみらいふる鎌倉と鎌倉漁業協同組合。場所は坂の offshore。近隣の幼稚園、保育園にも声をかけ、これまで最大約320人が参加しました。海岸清掃、地引網、漁師さんによる魚の勉強会、砂浜での魚釣りゲームなどを楽しみ、地引で捕れた魚のつみれ汁、焼き芋に舌鼓を打ちました。半年以上前から実行委員会を設置して準備する大イベントです(2018,10,20)。



# 前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい

議会運営委員会委員長

教育・こどもみらい常任委員

政策法務研究会メンバー

レポート

NO.59

2018,12発行

## 2018年11月臨時会からのご報告

- 1 市役所移転、住民投票条例案否決
- 2 市役所本庁舎移転はなぜ必要か
- 3 今後50年の鎌倉市発展の視点
- 4 鎌倉地域にとっても魅力的な移転

討議資料

## 市役所の移転はなぜ必要か

- 1) 本庁舎は大規模災害時に防災中央機能を果たさなければならないが、地震や津波\*1の直接的被害による機能停止とともに、道路寸断や渋滞で機能麻痺となる恐れがある。
- 2) 築後50年が経過した本庁舎は0.6の耐震性能。震度6でも倒壊の危険は低いが、業務継続に求められる0.9の耐震性がない。
- 3) 業務の拡大によって25,000~30,000㎡の床面積が必要だが、現状は10,000㎡。分庁舎を設けて対応しているが、本庁舎の耐震工事をするとさらに狭くなる。
- 4) 現在地に建て替えると、風致地区であるため高さは10mまでしか建てられない。また文化財包蔵地であるため、軽量の2階建てしか建てられず、必要床面積を確保できない。
- 5) 建物・設備の老朽化に加え、バリアフリーや情報化への対応、市民相談などの市民のためのスペースが確保できていない。
- 6) 現本庁舎の長寿命化をしても、上記の問題点は解決できず、仮庁舎の整備・引越し費用も必要となり、移転に比べて費用がかかる。

以上のように本庁舎としての機能を果たせなくなっている現状があります。同時に市民にとって使い易い市役所とはどのようなものか、を考える必要があります。多くの事務所機能は直接市民の日常に関係のないもの。そのために使い易い窓口、相談し易い空間、さらには、各所に分散している学習センターや図書館といった市民スペースが取れていない、ということです。御成町という利便性の高い場所をどう使うか、行政施設に必要な考え方ではないでしょうか。

\*1) 最新の鎌倉市ハザードマップでは、津波浸水想定地の境界にある。

### 市内小中学校の冷房設備

H31年の夏前に工事を終了する予定でしたが、授業中は工事ができないため、夏休み中に工事をするようになりました。このため、6、7月は冷風機で対応します。

## 今後50年の鎌倉市発展の視点

鎌倉市の人口が最大であったのは1987(S62)年の約17.6万人です。2030年には11.5万人、'50年には9.5万人。この人口減少に備え、歯止めをするには、より魅力的で住みやすい街づくりが欠かせません。

1948(S23)年、鎌倉市は大船町を編入し人口は約8万人。この編入によって旧鎌倉市は、工場地帯、商業地帯となった大船の力で、大きく発展してきたのです。

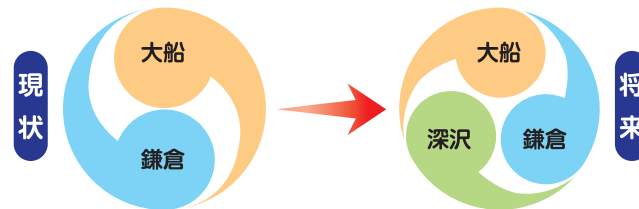
### ◆深沢地域の整備で第3の拠点を

現在の鎌倉は、歴史・観光の拠点である鎌倉地域、交通の結節点で産業・商業の拠点である大船地域の2つの拠点を持っています。ここに深沢地域\*2を新たな拠点として加えることで、3つの拠点による将来の鎌倉の発展が見込まれます。

深沢地域にはJR跡地を中心とした32haに及ぶ土地地区画整備事業が計画され、市所有の行政用地2,600㎡があります。ここに本庁舎・消防本部・総合体育館を一体的に整備してまちの中心とし、商業施設・住宅・教育・医療などの新しいまちを創造し、鎌倉市発展の新たな拠点とする計画です。

ここは建設が予定される東海道線村岡新駅(仮称)から約600m、湘南モノレール深沢駅から約400mと

### 【鎌倉市発展のイメージ】



大船、鎌倉の2つの拠点对となり鎌倉のまちを構成してきた

【大船地域】鎌倉の玄関口  
交通結節点・産業の中心エリア  
【深沢地域】新しいまち・スポーツ  
行政・健康の中心エリア  
【鎌倉地域】歴史・文化・自然  
観光・伝統・交流の中心エリア

2駅が利用できます。

この地域を鎌倉市発展の第3の拠点として、市全体の魅力を高め将来に備えることができます。

\*2) 最新のハザードマップでは、「想定し得る最大規模の降雨」があった場合、柏尾川流域の一部は0.5~3m未満の浸水が想定されるが、更地で工業地域のため様々な対策が立てられる。

## 鎌倉地域にとっても魅力的な移転

半世紀にわたって御成町にある市役所。私たちのまちのシンボルがなくなる、と思えば淋しい思いになるのは私だけではないと思います。

でも、多くの機能は移転するとしても、あのたたずまいはそのまま。さらに現在の1階部分の手続き窓口機能はそのまま残ります。市民サービス機能は残り、日頃私たちには縁遠い行政事務所機能だけが移転するのです。その空いたスペースは学習センター、図書館、万一の時の避難場所として活用します。さらに、健康増進、介護、医療、障がい者支援、高齢者福祉などの「暮らし支援」に関する総合窓口をつくることも可能です。手続きの場、とともに相談の場とすることもできます。市民にも観光客にも鎌倉の顔となる建物にできるのです。

本庁舎機能を移転することで、周辺に住む私たちにとってもにぎわいのある、さらに魅力的な「市役所」「御成町」とすることができるのです。

本庁舎の移転は順調に行っても10年後、実際にはもっと時間がかかることが想像されます。今日、明日のことではなく将来の鎌倉が魅力あり、活力を持ち続けるまちとなるように考えたいと思います。

### 釈迦堂切通しの崩落防止工事

当初予定ではH31年度から工事予定でしたが、史跡保護と道路の通行に向け、新たな設計を行っているため、H32年度からの工事となりました。